

敬愛大学 国際学部

# 2010年度 研究活動報告

## 掲載者一覧

(学部学科別にアルファベット音順)

### 国際学部国際学科

有馬 容子	Yoko ARIMA	199
家近 亮子	Ryoko IECHIKA	199
エーン・イケシマ	Jayne IKESHIMA	201
覚正 豊和	Toyokazu KAKUSHO	201
櫛田 久代	Hisayo KUSHIDA	202
水口 章	Akira MIZUGUCHI	203
村川 庸子	Yoko MURAKAWA	204
中村 圭三	Keizo NAKAMURA	205
大月 隆成	Takashige OTSUKI	206
織井 啓介	Keisuke ORII	206
三幣 利夫	Toshio SANPEI	207
庄司 真理子	Mariko SHOJI	207
高田 洋子	Yoko TAKADA	209
高橋 和子	Kazuko TAKAHASHI	211
山本 健	Takeshi YAMAMOTO	213
柳原 由美子	Yumiko YANAGIHARA	213

### 国際学部こども学科

畑中 千晶	Chiaki HATANAKA	214
池谷 美佐子	Misako IKEYA	215
越川 浩明	Hiroaki KOSHIKAWA	216
田口 功	Isao TAGUCHI	216
山口 政之	Masayuki YAMAGUCHI	217
山本 陽子	Yoko YAMAMOTO	218

---

## 国際学部国際学科

**有馬 容子** Yoko ARIMA

アメリカ文学／教授

### 〈現在の研究テーマ〉

人間の内面を描く現代のSF／ファンタジー文学を読者の想像力を拡大する道具としてとらえ、思いがけない作品がどれほど深い内容を表現しうるか様々な角度から解釈を試みる。具体的にはBernard Malamud、Ursula K. Le Guin、John Crowleyを中心とする。また、このような現代文学の魅力とトウエインの幻想文学を比較することにより、トウエイン文学の再評価を引き続き行う。

### 〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

プロジェクト研究の計画に基づきカリフォルニア大学バークレー校マーク・トウエイン・プロジェクトにて行った調査をもとにトウエインの幻想文学の現代性についてまとめる。特にトウエインが最後まで執着した人間の可能性についてその本質と表現方法を現代の幻想文学作品と比較しながら分析する。

### 〈公表された著書・論文等〉

- ①(共著) 2010年10月、【マーク・トウエインの文学世界】(編集委員として有馬担当)『マーク・トウエイン文学／文化事典』亀井俊介監修、彩流社、140-201ページ。
- ②(単著) 2011年2月、「妖精と人間の織りなす物語——ジョン・クロウリーの『リトル、ビッグ』」『敬愛大学国際研究』第24号、1-24ページ。

### 〈その他の学外活動〉

実用英語技能検定 面接委員 (1994年～現在に至る)。

\*\*\*

**家近 亮子** Ryoko IECHIKA

中国近現代政治史・日中関係論／教授

### 〈現在の研究テーマ〉

昨年度に引き続き岩波書店から出版される単著『蔣介石の外交戦略と日中

戦争』の原稿を執筆中であるが、量が増えているため、予定よりも大幅に遅れている。上下2巻本になる予定である。今の課題は、この本と中公新書『蔣介石』を出版することである。また、今年度は総合地域研究所から助成を受けた「共同研究」（「近代日本におけるア　ア人留学生の『日本体験』に再検証——千葉に刻まれた近代史を中心に」）の共同研究をすすめた。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

現在執筆中の単著と中公新書の本を出版することに専念したい。

新たなテーマとして、科研を申請中の「中国の政策決定過程における輿論要因の分析」の共同研究を開始する予定である。

総合地域研究所の「共同研究」の集大成として国立歴史民俗博物館でシンポジウムを開催する。

〈公表された著書・論文等〉

- ①(単著)「中国の抗日戦争と戦後構想」、岩波講座『東ア　ア近現代通史』6『ア　ア太平洋戦争と「大東亜共栄圏」1935—1945年』、岩波書店、2010年（本人担当分：151-173ページ）。
- ②(単著)「中国における『戦争責任二分論』の系譜——蔣介石・毛沢東・周恩来、日中戦争の語り方」、添谷芳秀編『中国外交の諸相』、慶應義塾大学出版会、2011年（本人担当分：1-28ページ）。

〈学会報告〉

- ①(口頭発表・中国語) 2010年4月10日、「“戦争責任二分論”在中国的源流」、蔣介石與近代中国国際学術研討会（中国・杭州市、浙江大学）。
- ②(口頭発表) 2010年5月21日、「蔣介石における西南建設の戦略的意義——四川を中心として」、第55回国際東方学会会議（東京教育会館）。
- ③(口頭発表・中国語) 2010年12月3日、「蔣介石1927年秋の訪日——《蔣介石日記》與日本新聞報導的比較分析」、蔣介石日記與民国史研究（台北市、中央研究院）。

〈その他の公表物〉

（書評）歩平編訳、高原明生監訳『中日関係史1978—2008』、『中国研究月報』第64巻第5号、2010年5月、36-39ページ。

〈その他の学外活動〉

- ・ア　ア政経学会理事（2005年10月～）。『ア　ア研究』編集担当。
- ・日本国際政治学会・分科会「東ア　ア国際政治史」責任者（2007年10月～）
- ・文科省現代中国拠点研究・研究員（2006年4月～）。

- ・慶應義塾大学東アジア研究所・招聘研究員（2006年4月～）。
- ・国・浙江大学客員教授（2008年1月～）。
- ・本現代中国学会理事（2010年10月～）。

〈学外からの研究助成〉

2007～12年度・現代中国拠点研究、文部科学省、研究代表者 国分良成（慶應義塾大学）、研究分担者。

\*\*\*

**ジェーン・イケシマ** Jayne IKESHIMA

英語／専任講師

〈現在の研究テーマ〉

The phenomenon of “Engrish”

Combining Puppeteering with English Teaching

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

I am researching how to use puppets and puppet shows to teach English to children. I am examining the ways that English dialog can be combined with Japanese stories for the purpose of entertaining and educating audiences. In addition, I am researching methods for teaching the art of puppetry and puppet manipulation to students. I am studying the construction of puppet theaters and how to transport them easily to puppet-show venues.

\*\*\*

**覚正 豊和** Toyokazu KAKUSHO

刑事法学(公法学)／教授

〈現在の研究テーマ〉

- ①死刑廃止論
- ②少年犯罪、高齢者犯罪など各種犯罪の類型的考察
- ③犯罪被害者論（含む修復的司法）

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

①のテーマにつきその代替刑の導入や被害者感情などの観点から死刑廃止の問題をさらに考察していきたい。また、このテーマに資するため確定死

刑者の処遇に関する国際比較研究もおおきな課題であると考えている (③のテーマは深い関わりをもつ)。

②の少年犯罪、高齢者犯罪など各種犯罪の類型的考察、とりわけ少年犯罪については毎月開催されている「少年法研究会」における情報交換等を基に少年の保護主義擁護論と厳罰論の検討を踏まえ、刑事処分と保護処分との限界の問題について考察していきたい。

〈その他の公表物〉

2010年3月「憲法と国民主権」、『佐倉市国際文化大学講義録』(財団法人佐倉国際交流基金、8-15ページ)。

〈その他の学外活動〉

- ・独立行政法人放射線医学総合研究所倫理・コンプライアンス委員 (平成21年10月～継続)。
- ・財団法人佐倉国際交流基金佐倉市国際文化大学運営委員 (平成21年10月～継続)。
- ・千葉県生涯大学校講師 (昭和60年6月～現在に至る)。
- ・明治大学犯罪学研究所研究員 (平成16年10月～現在に至る)。
- ・千葉大学非常勤講師 (憲法) (昭和61年4月～現在に至る)。

\*\*\*

**櫛田 久代** Hisayo KUSHIDA

アメリカ政治史／教授

〈現在の研究テーマ〉

アメリカ合衆国の政治制度の特徴の一つである連邦制の実態に関心がある。初期アメリカの政策形成過程において、内陸開発分野を中心とした連邦政府と地方政府間関係の力学に関する研究は、ひとまず『初期アメリカの連邦構造——内陸開発政策と州主権』(北海道大学出版会、2009年)として結実したことで、現在は、具体的な研究対象を変え、現代の連邦政府と州政府とのエネルギー政策の相互関係に関心を移している。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

ブッシュ・シニア政権からオバマ政権に至る大統領令および連邦議会の立法措置による新規沖合資源開発に対するモラトリアム政策を歴史的に概観すると同時に、沖合資源開発問題に関して各州における動向を整理するこ

とに取り組む予定である。

〈公表された著書・論文等〉

(単著) 研究ノート「オバマ政権と沖合石油・天然ガス掘削政策」『敬愛大学国際研究第』第24号、2011年、47-64ページ。

〈その他の学外活動〉

日本女子大学文学部非常勤講師

〈学外からの研究助成〉

- ・平成23～25年度 科学研究費補助金交付金 基盤研究(C)「アメリカ沖合石油・天然ガス田の新規開発モラトリアムに関する歴史研究」研究代表者。採択(平成23年度4月) 研究課題番号23530158。

\*\*\*

**水口 章** Akira MIZUGUCHI

政策学(対外政策論)／教授

〈現在の研究テーマ〉

政策決定過程におけるリスク認識についての理論研究に取り組んでおり、その事例として、日本の対外政策における資源・エネルギー外交、経済外交、安全保障外交について分析をしている。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

現在の研究テーマに引き続き取り組む。さらに、日本人の対外認識の変遷についても研究の視野を広げていきたい。

〈公表された著書・論文等〉

「リビアの政治変動と新制度構築」(『中東協力センター・ニュース』Vol. 36, No. 4, 47-55ページ、財団法人中東協力センター、2011年10月)

〈その他の公表物〉

- ①「リビア 今後の課題」(2011年10月27日『読売新聞』論点)。
- ②新イーグルフライ(投資助言・代理業 関東財務局長(金商)第1898号取得のエフピーネット有限会社発行のメールマガジン)に毎月1回執筆(毎回2500字程度)。

執筆テーマは次の通り。「中東情勢とリスクの連鎖」「中東地域の地政学的リスクと中国」「IEAの石油備蓄放出と中東情勢」「中国・中東諸国関係について」「リビア情勢の新局面と中東の動向」「オバマ政権の外交政策への

批判」「市民の連帯意識と中東情勢」「中東の政変と日本の中東政策」「2012年の中東情勢と原油価格」。

〈その他の学外活動〉

- ・財団法人日本国際協力財団 国際協力NPO助成制度審査委員
- ・財団法人自治体国際化協会の自治体国際協力アドバイザー
- ・エフイーシー民間外交推進協会の日本・中東文化経済委員会委員
- ・獨協大学非常勤講師
- ・千葉県立保健医療大学非常勤講師（後期）

\*\*\*

**村川 庸子** Yoko MURAKAWA

日米比較文化論／教授

〈現在の研究テーマ〉

- ① 20 - 21世紀米国の移民・市民権政策
  - 1. 日系／ア ア系アメリカ人の歴史の表象——例外主義再考
  - 2. 米国の国外退去政策と官僚政治
- ② 日本の「戦後」に関する比較文化論的考察

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

- ① 上記に関する論文執筆
- ② 自著の翻訳（邦語⇒英語）

〈公表された著書・論文等〉

- ① (単著) 「日系アメリカ人の表象——『リドレス史観』を超えるための試論」、『敬愛大学国際研究』第24号、2011年、25-46ページ。
- ② (新刊紹介) 和泉真澄著『日系アメリカ人強制収容と緊急拘禁法——人権・治安・自由をめぐる記憶と葛藤』（2009年）、『アメリカ学会会報』172号、2010年。

〈その他の公表物〉

コラム「道標：移民史研究の入り口——私にとっての愛媛」『愛媛新聞』（2011年1月16日）。

コラム「道標：いけずの陰に優しさ——記憶の中のおばちゃん」『愛媛新聞』（2011年2月20日）。



〈その他の学外活動〉

- ・敬愛高校敬天愛人講座講師
- ・国立歴史民俗博物館第六室リニューアル委員 第6室「現代」副室における展示「日本人移民と戦争の時代」（2011年3～5月）の企画、米国からの観覧者への解説、等。
- ・(財)日本高等教育評価機構評価員
- ・日本移民学会運営委員
- ・津田塾大学非常勤講師

〈学内活動〉

- ・敬愛大学／敬愛高等学校 敬天愛人講座講師
- ・総合地域研究所共同研究「『食』と『アグリ』をめぐる新たな教育カリキュラム構築に向けての実践的活動」（研究代表）。

〈学外からの研究助成〉

人間文化研究機構連携研究「移民史の比較研究」（研究代表者：今泉裕美子、2005～）研究員。

\* \* \*

**中村 圭三** Keizo NAKAMURA

大気環境学／教授

〈現在の研究テーマ〉

- ①千葉県北部地域における酸性雨の地域的特性に関する研究
- ②雨水の利用に関する研究
- ③ネパールのヒ素汚染に関する研究
- ④ネパールの農業気象に関する研究
- ⑤ネパールの環境問題に関する研究
- ⑥山岳の環境問題
- ⑦印旛沼流域鹿島川の自然環境に関する総合的研究

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

- ①長年の酸性雨に関する研究の成果をまとめる
- ②ネパールのヒ素汚染に関する研究をまとめる
- ③ネパールの農業気象に関する研究をまとめる
- ④ネパールの環境問題に関する研究成果をまとめる

⑤山岳の環境問題

⑥印旛沼流域鹿島川の自然環境に関する総合的研究

〈その他の学外活動〉

- ・佐倉市社会教育委員
- ・千葉大学文学部非常勤講師

〈その他の学外活動〉

① 2011年度から2015年度までの科学研究費補助金 基盤研究(B) 海外学術調査 (研究代表者: 中村圭三)、研究課題番号 23401006。研究課題名: ネパール・テライ低地におけるヒ素汚染の実態とその対策に関する研究。

\*\*\*

**大月 隆成** Takashige OTSUKI

アフリカ研究／専任講師

〈現在の研究テーマ〉

昨年度に引き続き、アフリカや途上国の開発など、学生にとってなじみが薄く、関心を持ちにくい分野について、どのようにすれば学生に関心を持たせることができるか、そのための効果的な方法にはどのようなものがあるか、という観点からの研究を進めている。具体的には、シミュレーション・ゲームを利用した教材開発を進めており、アフリカを舞台にした開発教育用教材のゲーム、「ヴィクトリア湖のほとり」の考案・試作を行った。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

「ヴィクトリア湖のほとり」を実際に授業に導入して、その教育効果を検証しつつ、より教材として使いやすいものにする作業を進めるとともに、学生がいつでも独習できるようなEラーニング・コンテンツ化を目指す作業に着手する予定である。

\*\*\*

**織井 啓介** Keisuke ORII

国際金融論／准教授

〈現在の研究テーマ〉

今次金融危機を招来した原因の1つとして、グローバルインバランスと米

国経済との関係を研究しています。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

新興国の高成長と米国経済の相対的な地位低下に伴う国際通貨としてドルの役割の展望について。

〈公表された著書・論文等〉

- ①(単著) “The U.S. Economy under Global Imbalances,” 『敬愛大学国際研究』第24号、2011年、65-76ページ。
- ②(共訳) ダンピサ・モヨ 『援助じゃアフリカは発展しない』東洋経済新報社 (Dambisa Moyo, *Dead Aid: Why Africa is Not Working and How There is Another Way for Africa*, 2009.の翻訳)。

〈その他の学外活動〉

- ・独立行政法人経済産業研究所 (RIETI) の研究プログラム「通貨バスケットに関する研究」の研究委員 (研究成果は、藤田昌久・若杉隆平『グローバル化と国際経済戦略』日本評論社 (2011) の第4章「グローバルインバランス、東アジア通貨間乖離と国際協調の必要性 AMUによる分析等」(139-188ページ) に部分執筆しました)。
- ・千葉経済大学経済学部非常勤講師 (金融論)。

\*\*\*

## 三幣 利夫 Toshio SANPEI

国際経済／教授

〈現在の研究テーマ〉

インターシップの拡大と就職先の開拓。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

インターシップ拡大と就職先拡大の更なる推進。

\*\*\*

## 庄司 真理子 Mariko SHOJI

国際機構論・国際公共政策論／教授

〈現在の研究テーマ〉

ビジネスが国境を越えてトランス・ナショナルに活動するようになってき

た今日、紛争におけるビジネスの行動指針もルール化する必要が生じてきた。そのような流れの中、2010年6月24日から25日にかけてニューヨークで開催された国連グローバル・コンパクト（United Nations Global Compact）10周年記念のリーダーズ・サミットでは、その記念行事のひとつとして、このビジネスと平和に関するガイダンス文書が策定された。本年度の研究は、このガイダンス文書の策定過程に直接コミットし、最終草稿審議を4月25日に日本で開催した。グローバルな規範の策定過程に実際に関わることによって、規範起業家相互のやりとりを、内側から観察することができた。

国連学会では、新たな地球規範に関する研究を集めて検討し、一冊の本にまとめた。グローバル化の今日、地球社会に適用可能な規範は、国際法の枠を超えて広がりつつある。これらの新しい規範を、いかに策定し、いかに向き合い、運用していくかが、今後の地球社会の大きな課題となるであろう。

#### 〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

国連グローバル・コンパクト、ビジネスと平和専門家委員会委員として、2010年度に策定した紛争におけるビジネスの行動指針の実施過程を調査研究する。ことに今年は、Multistakeholder processに焦点をあてる。ヨーロピアン・ワシントン大学、国連グローバル・コンパクト・オフィスとの共同研究もすすめる予定である。

#### 〈公表された著書・論文等〉

- ①(編著)「序文 新たな地球規範と国連」『国連研究』第11巻、2010年、9-18ページ。
- ②(単著)「国連グローバル・コンパクトと平和：紛争による影響を受けた地域およびハイリスク地域における責任あるビジネスに関するガイダンス文書：企業と投資家のためのリソースについて」『法学新報』（臼井久和先生古稀記念論文集）中央大学法学会、第117巻 第11・12号、2011年、495-528ページ。

#### 〈学会報告〉

- ①(口頭発表) Organizer and Moderator, United Nations Global Compact, “Business & Peace” Workshops, Japan: “How Business Can Contribute to Peace and Development through Multistakeholder Collaboration,” Sunday, 25 April 2010, The University of Tokyo, Komaba Campus, Tokyo.

- ②(口頭発表) 2010年6月19日、Mariko Shoji, The Report of United Nations Global Compact, Business & Peace Workshop, Japan, “How Business Can Contribute to Peace and Development through Multistakeholder Collaboration”、日本平和学会(お茶の水女子大学)。
- ③(口頭発表) 2010年6月27日、「国連グローバルコンパクトと平和」、日本国際連合学会(南山大学)。
- ④(口頭発表) 2011年3月16日、Mariko Shoji, The United Nations Global Compact and Peace: Guidance on Responsible Business in Conflict-affected and High-risk areas: A resource for companies and investors, International Studies Association (ISA), Montreal, Canada

〈その他の公表物〉

- ① Mariko Shoji, Contributor, United Nations Global Compact, *Guidance on Responsible Business in Conflict-affected and High-risk areas: A resource for companies and investors*, United Nations, New York, 2010.

〈その他の学外活動〉

中央大学客員研究員

日本国際連合学会理事、編集委員長

日本国際政治学会、書評小委員会委員長

コロンビア大学大学院国際公共政策研究科客員研究員

Advisor of “Business and Peace” project, UN Studies Program Working Group, School of International Public Affairs, Columbia University

〈学外からの研究助成〉

平成22年度科学研究費補助金、基盤研究(B)、研究課題番号20330034、研究課題名「国際規範の競合と複合化についての比較研究」。

\*\*\*

**高田 洋子** Yoko TAKADA

東南アジア経済・国際関係史／教授

〈現在の研究テーマ〉

- ① アジアにおけるフランス植民地支配・フランス帝国主義の実証的研究。
- ② 仏領インドシナの経済史研究。20世紀インドシナの国際関係、政治・社会・経済、とりわけメコンデルタの土地所有制度史研究。植民地文化の

研究。

③紅河デルタ農村から調達された仏領期契約労働者に関する研究。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

①同上。

②南ベトナム領メコンデルタにおける1950年代～60年代の土地改革研究。

③ベトナム領メコンデルタにおける1990年代の産業発展史。

〈公表された著書・論文等〉

①(単著)2010年7月、「戦争と社会変動——メコンデルタの大土地所有制崩壊をめぐる一考察」、『ア　ア・アフリカ研究』ア　ア・アフリカ研究所、第50巻第3号、46-62ページ、査読付き。

②(単著)2011年3月、「仏領期メコンデルタにおける大土地所有制の成立(1)」『敬愛大学総合地域研究』創刊号、59-80ページ。

③(単著)2011年3月、『仏領期ベトナム・ナムディン省諸村落の契約労働者クーリー募集に関する資料集成1927・1929年データベース』(平成21年度敬愛大学研究プロジェクト報告書)、1-511ページ。

〈学会報告〉

①(司会)2010年12月11日、文部科学省戦略的大学連携事業(GP)主催、公開講座「地域と大学の連携を目指して」第1部パネルディスカッション13:30～16:30(千葉大学・けやき会館)。

②2010年6月19日(企画・趣旨説明)、敬愛大学総合地域研究所　第1回公開シンポジウム「新しい千葉学への道」(敬愛大学新館3301教室)。

③(口頭発表)2011年1月28日、敬愛大学総合地域研究所　第2回東南アジア研究会「仏領期メコンデルタ／バクリユウ省における大土地所有制成立前史」(敬愛大学新館3701室)。

〈その他の学外活動〉

- ・京都大学東南アジア研究所　学外研究協力者(委嘱・継続)。
- ・平成22年度文部科学省戦略的大学連携事業(GP)・運営協議会委員「ユニバーサルコミュニケーションのための教養教育に向けた千葉圏域コンソーシアム」千葉大学・神田外語大学・敬愛大学・城西国際大学連携。
- ・千葉市民文化大学世界史学科講師「フランス植民地時代のベトナム(1)～(3)」(財団法人千葉市文化振興財団、2010年9月28日、10月5日、12日)。

〈学外からの研究助成〉

①東京大学東洋文化研究所東洋学研究情報センター　平成22年度共同研究

「国際的な米価高騰とインドシナ半島の稲作の変容に関する農業経済史」  
(研究代表者 宮田敏之：東京外国語大学大学院准教授)の研究分担者。

- ②同上の共同研究組織メンバーとして、メコンデルタ国際学術調査に派遣  
(インドシナ稲作経済の現状と改良事業視察)。2011年3月16日～22日、ベ  
トナム社会主義共和国。

\*\*\*

## 高橋 和子 Kazuko TAKAHASHI

自然言語処理・機械学習・社会調査方法論／教授

### 〈現在の研究テーマ〉

- ①サポートベクターマシン (SVM) における分類精度の向上を目的に提案  
した「クラス所属確率を用いたアンサンブル学習アルゴリズム」につい  
て、一般的なデータセットによる実験も行って有効性を示す (公表された  
著書・論文等①②)、学会報告①②)。
- ②主として大規模社会調査で利用されてきた「職業・産業コーディング自  
動化システム」を一般の研究者も容易に利用できるように、東大社会科  
学研究所 Web サイトにより公開する。最初はシステム構成が最も単純な  
「ルールベース手法」の公開システムを構築する (学会報告③)。

### 〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

- ①上記①継続。
- ②上記②「機械学習とルールベース手法の組み合わせによる手法」の公開  
システムを構築。

### 〈公表された著書・論文等〉

- ①(単著) 2010年6月、「クラス所属確率を利用したアンサンブル学習」、『人  
工知能学会第24回大会発表論文集』 [https://kaigi.org/jsai/webprogram/  
2010/pdf/260.pdf](https://kaigi.org/jsai/webprogram/2010/pdf/260.pdf) (accessed 2011-12-15)。
- ②(単著) 2011年3月、「クラス所属確率を用いた多クラス SVM におけるア  
ンサンブル学習」、『情報処理学会第73回全国大会発表論文集』 No. 2、  
25-26 ペー 。
- ③(単著) 2011年3月、「ISCO 自動コーディングシステムの分類精度向上に  
向けて—— SSM および JGSS データセットによる実験の結果——」、大阪商  
業大学 JGSS 研究センター編 『JGSS Research Series No. 8 : 日本版総合的

社会調査共同研究拠点研究論文集 [11]、193-205 ペー。

〈学会報告〉

- ①(口頭発表) 2010年6月9日、「クラス所属確率を利用したアンサンブル学習」、人工知能学会第24回大会(長崎ブリックホール)。
- ②(口頭発表) 2011年3月4日、「クラス所属確率を用いた多クラスSVMにおけるアンサンブル学習」、情報処理学会第73回全国大会(東京工業大学大岡山キャンパス)。
- ③(口頭発表) 2011年3月8日、「職業・産業自動コーディングシステムのWeb公開に向けて」、数理社会学会大会第51回大会(沖縄国際大学)。
- ④(司会担当) 2011年3月8日、[第5-1部会]「コミュニケーションの分析と支援セッション」、数理社会学会大会第51回大会(沖縄国際大学)。

〈その他の学外活動〉

- ・文部科学省「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」共同研究拠点「JGSS(日本版総合的社会調査)研究センター」(代表:岩井紀子)嘱託研究員(2008年10月~)。
- ・数理社会学会監事(2007年4月1日~2011年3月31日)。
- ・成蹊大学アシア太平洋研究センター「暮らしについての西東京市民アンケート」(代表:小林盾)における職業データ自動コーディング処理(2010年9月)。
- ・2010~12年度、科学研究費補助金 基盤研究(C)「社会調査の基盤を提供する自由回答の自動コーディングシステムの開発と公開」研究代表者。
- ・2010~12年度、科学研究費補助金 基盤研究(C)「対人援助専門職職務内容コーディングの自動化に関する実証的研究」(研究代表者:後藤隆)連携研究者。
- ・2010年12月1日、社団法人「社会調査協会」連絡責任者として「社会調査士資格」申請手続き(2011年4月1日 認定許可)。

〈学外からの研究助成〉

2010~12年度 科学研究費補助金 基盤研究(C)「社会調査の基盤を提供する自由回答の自動コーディングシステムの開発と公開」研究代表者、研究課題番号22530516。

\*\*\*



## 山本 健 Takeshi YAMAMOTO

ドイツ中・近世都市史／教授

### 〈現在の研究テーマ〉

ドイツ中・近世におけるアウクスブルク市の様々な職業的立場における人物たちが残した「日記」や「年代記」に着目して、各著者らが、自分が生きていた同時代の社会（政治・経済・文化）をどのように見、またどのように感じ、そしてどのように批判していたのか、時間の縦軸と横軸の2つの視角から、その比較研究を行うことである。

アウクスブルク市を対象に商人ルーカス・レムの『日記』の時代（1494－1541年）後の都市社会を解明すべく、医師フィリップ・ヘーヒシュテッターが著した『日記』（1579－1635年）の邦訳に取り組んでいる。

### 〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

昨年の医師の『日記（1）』の邦訳に続き、（2）の邦訳に取り組み、日常生活の分野の実態を明らかにしてみたい。

### 〈公表された著書・論文等〉

- ①「近世アウクスブルクの医師の日記の邦訳（1）」（『敬愛大学国際研究』第24号、2011年、105-137ページ）。
- ②（書評）若曾根健二著『ウァフェーデの研究——ドイツ刑事法史考』（多賀出版、2009年）（『西洋史学論集』第48号、2010年、125-130ページ）。

\*\*\*

## 柳原 由美子 Yumiko YANAGIHARA

英語音声学、教育方法学／准教授

### 〈現在の研究テーマ〉

英語教授法に関する実証的研究に立ち戻って、「シャドウイングの効果」や、「CALLを使用した場合の効果」などに関して、今まで採取したデータを整理し、それを基に、「e-learning システムを活用した英語聴解学習の指導法に関する実証的研究」の論文にまとめることを試みた。

### 〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

上記論文をさらに発展させるために、再度実験計画を立て、データ収集を試みるつもりである。

〈その他の学外活動〉

- ①日本国際地域開発学会評議員（2001年4月～2011年3月）
- ②放送大学 平成22年度2学期面接授業担当講師（科目名：英語の音声）
- ③放送大学 平成22年度2学期面接授業担当講師（科目名：国際協力論——技術移転の方法と文化協力）

---

国際学部こども学科

畑中 千晶 Chiaki HATANAKA

西鶴浮世草子研究・翻訳研究／准教授

〈現在の研究テーマ〉

- ①西鶴を中心とした浮世草子作品の研究  
『男色大鑑』に関する論文を執筆・公表。  
『西鶴諸国はなし』の異郷訪問譚に関する研究。
- ②海外における日本文学研究についての調査・考察  
論文「フランス語の井原西鶴——『浮世の月』における試み——」を執筆  
(2011年6月刊行、日本比較文学会編『越境する言の葉——世界と出会う日本文学 日本比較文学会学会創立60周年記念論文集』所収)。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

海外の日本文学・比較文学研究者との共同研究

ヨーロッパ日本研究協会国際大会（2011年8月、於エストニア、タリン大学）において「Saikaku's narration or katari」と題するシンポジウムを行うため、中嶋隆氏（早稲田大学教授）、ダニエル・ストリューブ氏（フランス、パリ第七大学准教授）を中心に、エラール・シアリ氏（フランス、モンペリエ大学教授）、ポール・シャロウ氏（アメリカ、ラトガース大学教授）らと協議を重ねている。

〈公表された著書・論文等〉

- ①(単著) 2010年11月、「我らは男色の道に分て——〈演出〉で読む『男色大鑑』——」、『西鶴と浮世草子研究』、笠間書院、第4号、93-105ページ。
- ②(単著) 2011年3月、「京都の闇金融」（『本朝二十不孝』巻一の一「今の都も世は借物——京に悪所銀の借次屋——」）、西鶴研究会編『西鶴が語る江戸

のダークサイド』、ぺりかん社、15-28ページ。

〈学会報告〉

- ① 2010年6月12日（講演）、「西鶴が語る江戸の食事情」、敬愛大学教育後援会総会。
- ② 2010年11月30日（講演）、「初年次教育としての『1年基礎演習』をどう運営するか」、敬愛大学FD研修会。

〈その他の公表物〉

- ① 2011年3月、教職随想「物語のチカラ」『教職への里程』第15号、102-103ページ。
- ② 2011年3月、読書案内「『古典だから素晴らしい』は危険だ（『これからの古典ブンガクのために——古典教材を考える』有働裕著、ぺりかん社、2010年）」、『君にすすめる一冊の本』第6集、20-21ページ。
- ③ 2011年3月、読書案内「女性の生き方について考えるということ（『人形の家』、イプセン著、原千代海訳、岩波文庫、1996年）」、『君にすすめる一冊の本』第6集、40-41ページ。

〈その他の学外活動学会報告〉

- ・ 2000年12月～至現在、日本比較文学会東京支部役員。
- ・ 2009年6月～至現在、日本比較文学会事務局幹事（名簿担当）。
- ・ 1997年4月～至現在、駒澤大学外国語部非常勤講師。
- ・ 2009年4月～至現在、青山学院大学文学部非常勤講師。
- ・ 2010年9月10日、24日、10月8日、市原市五井公民館主催事業「江戸文化に親しむ」講師。

\*\*\*

**池谷 美佐子** Misako IKEYA

小学校教育／准教授

〈現在の研究テーマ〉

小学校教育生活科の概説と指導法

学校の安全教育

いのちと環境

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

小学校教育生活科の概説と指導法

生活指導論  
特別活動の研究  
こどもと家庭の関係論  
〈その他の学外活動〉  
日本幼児教育学会会員

\*\*\*

**越川 浩明** Hiroaki KOSHIKAWA

数学教育／教授

〈現在の研究テーマ〉

これからの小学校教員に必要とされる算数教材等の研究。

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

算数教材の歴史と和算の算数教材への活用について調査研究。

〈学会報告〉

①(口頭発表) 2010年6月、The effective use of LaTeX drawing in linear algebra—Utilization of graphics draw with KETpic—, Computer Algebra and Dynamic Geometry Systems in Mathematics Education, Hluboka nad Vltavou, Czeck Reublic

②(口頭発表) 2010年8月、「KETpicの図表作成機能の拡張について」,日本数学教育学会第92回総会(新潟市朱鷺メッセ)。

〈その他の公表物〉

「教員養成セミナー、一般教養 自然(数学)」時事通信出版局、2010年9月号～2011年8月号。

〈その他の学外活動〉

東京電機大学情報環境学部非常勤講師(幾何学)。

\*\*\*

**田口 功** Isao TAGUCHI

理科実験・ニューラルネットワーク／教授

〈現在の研究テーマ〉

入出力がデジタル的なパルスニューラルネットワーク、複素ニューラルネ

ットワークやニューロコンピューティングと量子計算機を融合させた量子ニューロコンピューティングが注目され、バックプロパゲーション法（以下：BP法）を用いたシグモイド素子から構成される階層型ニューラルネットワーク（以下：NN）は古典的なネットワークに成りつつある。しかし、その一般的なNNは、最近のニューラルネットワークに比較して構成が容易であるために、現実的にはBP法やその拡張手法を学習則として取り入れ広範囲に利用されている。市販されているNNソフトの基本は、シグモイド素子から構成される階層型ニューラルネットワークである。学習対象が複雑で、かつ、多量の学習データを用いた学習が必要な場合、学習させても学習が成功しない、あるいは、成功しても多大な学習時間を要するという問題点が残る。また、振動現象がなぜ起こるかについては解析されていないのが現状である。本研究では、重み係数更新量に対して、この問題を解決するためにベクトルを導入し、さらにフーリエ変換を用い解析を行う。

〈公表された著書・論文等〉

- ① An Efficient Learning Method for the Layered Neural Networks Based on Selection of raining and Input Characteristics of an Output Layer Unit] (電気学会誌に掲載済) が *Electronics and Communications in Japan* (John Wiley & Sons, Inc.) に掲載決定 (2010年2月、John Wiley & Sons, Inc.から連絡済)。

\*\*\*

**山口 政之** Masayuki YAMAGUCHI

国語科教育・教職課程／准教授

〈現在の研究テーマ〉

読字行為における読み違いの諸相

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

読み違いに関する各論の展開

〈公表された著書・論文等〉

(単著) 2010年2月、「音読学習時の読字行為に関する考察」『上越教育大学国語研究』第25号、51-62ページ。

〈学会報告〉

(口頭発表) 2010年1月、「読字過程で起きる〈読み違い〉の実相——平仮

名部分の〈代用〉に着目して」、臨床教科教育学会、第9回臨床教科教育学セミナー（群馬大学教育学部）。

\*\*\*

## 山本 陽子 Yoko YAMAMOTO

小学校音楽科教育・准教授

### 〈現在の研究テーマ〉

敬愛大学に勤務した初年度より、小学校教員に求められる力について、学生の実態や社会の要請などから、継続的に分析・研究を進めてきている。専門分野である音楽科教育においては、教員として欠かせない音楽的な素養や基礎的な知識理解、技能、感性などについて実践的な授業を展開して、どのようにすれば、学生が学校教育の中で音楽科の果たす役割について理解し、主体的に取り組めるようになるか、さまざまな角度から研究している。

音楽が映像や音源として個人で簡単に楽しめる現在、音楽科教育のなかでの「読譜」指導はどうあるべきかを問いながら、学校教育の中でこれまであまり指導されてこなかった「音程感」を身につけることの大切さを「合唱」の授業を中心に組みこんで、成果を上げてきている。

また、経験による個人差の大きいピアノ実技については、与えられた楽譜を弾くことより、平易に楽しく弾けて実際に応用できるコードを中心としたピアノ伴奏法を取り入れ、「器楽」の授業で実施し、初心者でも十分に成就感のもてる活動になるよう配慮している。

### 〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

学校現場で役に立つ音楽的な力や日常の音楽をより深く楽しむことのできる力を伸ばすための指導について、今後とも研究を続けていきたい。

これらと合わせて音楽とは何か、人間にとって音楽はどのような意味をもつのかという根源的な問いについてもさらに研究を深めていきたいと考えている。

### 〈公表された著書・論文等〉

（共著）2010年4月、「第15章『伴奏法の基礎』」『音楽表現（新・保育内容シリーズ5）』三森桂子編、一藝社、本人担当分：221-234ページ。

〈学会報告〉

(司会) 2010年8月、音楽学習学会第6回大会(埼玉大学)。

〈その他の公表物〉

2010年4月「特集あのムーブメントは今——鼓笛から始まった」季刊『音楽文化の創造』2010 Spring Vol. 56、財団法人音楽文化創造、9-13ページ。

〈その他の学外活動〉

- ・東京学芸大学教育学部非常勤講師「初等音楽科教育法」。
- ・目白大学人間学部子ども学科非常勤講師「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」。
- ・音楽学習学会 世話人および研究紀要論文査読委員。
- ・日本民俗音楽学会 東京大会実行委員。

敬愛大学国際研究第25号 執筆者一覧  
(掲載順)

池谷 美佐子 (いけや・みさこ)

国際学部こども学科 准教授

Misako IKEYA: Associate Professor of Child Studies,  
Faculty of International Studies.

田口 功 (たぐち・いさお)

国際学部こども学科 教授

Isao TAGUCHI: Professor of Child Studies,  
Faculty of International Studies.

山口 政之 (やまぐち・まさゆき)

国際学部こども学科 准教授

Masayuki YAMAGUCHI: Associate Professor of Child Studies,  
Faculty of International Studies.

山本 陽子 (やまもと・ようこ)

国際学部こども学科 准教授

Yoko YAMAMOTO: Associate Professor of Child Studies,  
Faculty of International Studies.

真珠 まりこ (しんじゅ・まりこ)

講演者 絵本作家

Mariko SHINJU: Japanese illustrator and author for  
children's books.

畑中 千晶 (はたなか・ちあき)

国際学部こども学科 准教授

Chiaki HATANAKA: Associate Professor of Child Studies,  
Faculty of International Studies.

庄司 真理子 (しょうじ・まりこ)

国際学部国際学科 教授

Mariko SHOJI: Professor of International Studies,  
Faculty of International Studies.

山本 健 (やまもと・たけし)

国際学部国際学科 教授

Takeshi YAMAMOTO: Professor of International Studies,  
Faculty of International Studies.

\*国際学部各執筆者の専門領域などの詳細については、「2010年度研究活動報告」を参照。



## 編集後記

昨年度は、東日本大震災のため卒業式が中止になり、第24号を配布できなかった。前年度の卒業生には、改めてお詫び申しあげる。さて、本年度は、震災冷めやらぬ企画段階時に本学部の専任教員たちの教育力を形で示すことで、学生たちを励まそうと考え、特集「教育」を提案した。こうして本誌25号は、こども学科の教員4人の論文と真珠氏の講演から成る特集「教育」を核として、その他に論文2本と史料紹介1本から構成されている。なお、庄司論文はアメリカ留学の成果である。最後に、編集委員会の次年度の課題として、昨年度から採録された教育研究活動報告の書式の改善を挙げておく。

(山本)

## 『敬愛大学国際研究』 規程

- 1 『敬愛大学国際研究』は、敬愛大学国際学部における研究成果の発表を目的として年1回刊行される。
- 2 刊行については、本学国際学会総会の選任した編集委員会がその任にあたる。
- 3 執筆者は、原則として本学教員とする。
- 4 原稿は未発表のものに限る。
- 5 原稿掲載の採否は、編集委員会がこれにあたる。
- 6 本誌に掲載の原稿の著作権は国際学会に帰属するものとする。
- 7 本規程の改正は、編集委員会の議を経て国際学会総会の承認をうけるものとする。

【付則】 本規程は2003年4月1日より施行する。

本規程は2011年4月1日より施行する。

## 『敬愛大学国際研究』 編集委員会

山本 健 (委員長)

村川庸子

山 政之

『敬愛大学国際研究』 第25号

発行—2012年2月29日

編集者—『敬愛大学国際研究』編集委員会

発行者—敬愛大学国際学会

会長 中村圭三

〒285-8567 千葉県稲毛市穴川1丁目5番21号

TEL 043-251-6363(代表) FAX 043-251-6407

印刷所—大日本法令印刷株式会社

# The Keiai Journal of International Studies

No. 25, February 2012

## Special Issue on Education

### Special Issue on Education: Articles

- The present state and issues of the course for teaching profession  
in Keiai University ..... Misako IKEYA ( 1 )
- A Learning Method for the Layerd Neural Networks Based on the  
Multi-stage Learning and a Dynamic Adjustment of Learning Coefficient  
by Errors for Using Oscillatory Effect..... Isao TAGUCHI ( 33 )
- Required knowledge for Elementary School Teachers II  
—The Actual Conditions of the Student and The Direction of the  
Department of Child Studies ..... Yoko YAMAMOTO ( 55 )
- Aspects of self-correction to the reading alteration  
during reading-aloud activities  
—How were the first reading alterations self-corrected  
in the second reading-aloud..... Masayuki YAMAGUCHI ( 81 )

### Special Issue on Education: Lecture

- Let's think about the world with Mottainai Grandma..... Mariko SHINJU (101)

### Articles

- The mysterious and dangerous world of Saikaku's story:  
Reading between the lines..... Chiaki HATANAKA (121)
- The United Nations Global Compact and Peace:  
Guidance on Responsible Business in Conflict-affected and  
High-risk areas: A resource for companies and investors  
..... Mariko SHOJI (135)

### Historical Materials

- Translation of a German Doctor's Diary in Early Modern Augsburg (2)  
—*Das Tagebuch des Augsburger Arztes und Stadtphysicus  
Dr. Philipp Hoehstetter, 1579–1635*  
..... Takeshi YAMAMOTO (161)

### Reports

- Reports on Faculty Resarch Activities 2010 ..... (197)